

一年間のアウトプット例

2023年 「ユーザーの真のニーズを解明せよ! ~問題の本質を捉えた DX 推進」

DX で解決すべき問題の本質は、ユーザーの感情のその先にあるかも…!?
デザイン思考で本質に迫る方法を、導入しやすい形で「ハンドブック」にまとめました。

2022年 「ノーローコード開発ガイドの策定とその有用性」

ノーコード/ローコード開発のツール選定から開発・運用のそれぞれの勘所をスタートガイドとしてまとめ、有用性を検証しました。

2018年 「情報システム部門から CIO を輩出するには?」

IT 出身者が CIO になるために必要なものとは何か。13 人の CIO が惜しげもなく語ってくれた珠玉の金言から導き出された答えとは一。

📄 2003 年以降の成果物一覧 (報告書の閲覧 PWD : soldoc)
<https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups/#c06>



2023 DX推進のためのデザイン思考
ハンドブック

学会との提携

全国一位に選ばれた分科会は、情報処理学会の「学会誌」への論文の採録、および学会イベントでの発表機会が与えられます。

■ 会誌「情報処理」「デジタルプラクティスコーナー」掲載

- 機械学習プログラミングのスキル習得における集団学習の有効性
- アジャイル開発におけるエフィカシードリブン活用の提言



■ 「情報科学技術フォーラム」での発表

- ユーザーの真のニーズを解明せよ! ~問題の本質を捉えた DX 推進
- エフィカシーで実現するアジャイル SDTs ~自律可能な開発チーム
- ノーローコード開発ガイドの策定とその有用性

研究活動のサポート

✓ ワークショップ開催

- プロジェクト管理の基礎
- 会議ファシリテーション実践トレーニング
- 「文章力大全」報告書の書き方
- 相手を動かすプレゼンテーション講座

✓ 幹事アドバイス

分科会のアドバイザーとしてソリューション研究会幹事が、進捗報告会や発表会リハーサルなど、一年間の活動期間中に3~4回、進捗を細かくフォローします。

評価と表彰

「成果報告書」と「プレゼンテーション」をもとに地区代表を決め、年度末の「全国大会」でそれぞれの全国一位を表彰します。



✓ 成果報告書の評価ポイント

- 研究内容の深堀り度
- 合理性、説得力
- 独自性
- 貢献度、有効性
- 表現力

✓ プレゼンテーションの評価ポイント

- 内容の有用性
- ストーリーに筋が通っているか
- 伝える情熱
- プレゼン力



アシスト

アシストユーザー会

今、ここでしか体験できない価値がある

ソリューション研究会 | ご案内



↓ 詳細はWebをご覧ください。

🔍 アシスト ソ研

検索

分科会参加申込はこちら →

申込受付期間: 11月~2月
※ 定員になり次第締め切ります。



分科会

話し合い、知恵を出し合い、 解決策をみんなで考える一年間

研究活動を通じて知識や経験を積み、
自分を鍛える機会に

活動の目的と特長

テーマに沿った研究をプロジェクト型で実施することで参加者に成長の機会を提供します。

分科会の具体的な研究内容やステップは参加メンバーの裁量にゆだねられています。その自由度の高さゆえの苦勞と面白さも、当分科会に参加することで得られる醍醐味です。

- 共創による研究の推進
- 自律型プロジェクトの運営
- 成果発表を含む一年間の活動

参加者の声

自由度が高いソ研のやり方が好き



題材だけ渡され研究内容から自分たちで作っていくソ研のやり方が好きです。自社や自身の課題を盛り込みながら取り組むことができました。継続して相談できる人間関係ができたのは一年間やり切った成果です。

上司の声

リーダーとしての風格が備わった



技術力と経験で業務をそつなくこなす性格であったが、アイデアを多く発信し、メンバーを議論で巻き込み牽引するリーダーとしての風格が備わりました。成長したことを実感し、参加させて良かったと感じています。

他のメンバーの常識が自分の非常識だった!



業種や職種が多岐にわたることで、他のメンバーの常識が自分の非常識であったり、自分が考え付かなかった視点から議論を展開するメンバーがいたり、普段の仕事では得られない気づきや刺激が得られました。

考え方に幅と奥行きができた



組織にいると年齢や性別・経験・所属組織や考え方が異なる人達と一年間一つのテーマを真剣に議論し合うことはほぼありません。そうした場に積極的に取り組む部下は、客観的な目線を持ち、考え方に幅と奥行きができました。



一年間の活動スケジュール例 (プロジェクト型学習)

